



株式会社ユーエイ

本社 〒578-0965 東大阪市本庄西1丁目8番39号
TEL.06-6747-5607 / FAX.06-6747-5608

O.T.ファテック事業部 URL <http://www.yuei-group.com>

東大阪営業所 TEL.06-6747-5620 / FAX.06-6747-5605
 淀川営業所 TEL.06-6396-1151 / FAX.06-6396-1158
 枚方営業所 TEL.072-858-4400 / FAX.072-858-1965
 奈良営業所 TEL.0743-57-7782 / FAX.0743-57-7772
 小牧営業所 TEL.0568-75-7206 / FAX.0568-75-7208
 関東営業所 TEL.048-227-9470 / FAX.048-227-9471
 F S 部 TEL.0743-57-7771 / FAX.0743-57-7772

新年のごあいさつ

株式会社ユーエイ 代表取締役会長 雄島 大貴

謹んで新春をお祝い申し上げます。
 長きに渡って不自由を強いられたコロナ禍から一転、製造業には明るい兆しが見え始めています。一方で、足元では世界的な半導体不足、部品不足に加えて中国の電力不足に端を発する素形材価格の高騰など、依然として不透明感が拭えないビジネス環境となっております。



さて、一昨年に引き続き昨年企業活動が制限された中、新たな需要が続々と創出されています。当社においても、これまでは換気とは縁遠かった倉庫や製造現場において、ユーエイファンに除湿などの周辺装置を加えた「空調ソリューション」が数多く求められるなど、これまでに無かったユーザーニーズが生まれています。

先行きの見通しが立ちづらい昨今ではありますが、先んじて新たな需要を見つけ、しっかりとキャッチアップしていくことが、商機及び勝機に繋がっていくのではないのでしょうか。

ようやく対面でのご提案ができるようになりつつある本年は、いかにしてユーザーの皆様への立場に寄り添い、お役に立てるかを考え抜いていく所存です。

本年も引き続き、宜しくお願い致します。

ユーザー紹介

中村留精密工業の複合加工機「WY-1100 II」を背に宇田川浩二社長(手前)と社員



「機械販売を30年以上やってきて、いつか自分でモノをつくってみたいと思っていた」
 そんな夢を叶えたと話
 「機械の納入先工場を訪ねる」の宇田川浩二社長。

管理を徹底、月産70万個でも品質を維持

「機械販売を30年以上やってきて、いつか自分でモノをつくってみたいと思っていた」
 そんな夢を叶えたと話
 「機械の納入先工場を訪ねる」の宇田川浩二社長。

シナジーエンジニアリング株式会社 (埼玉県川口市)

と、ここではどんな機械部品を加工しているんだろうといった気になった。自分もこんな部品の製造をやってみたいなあってね」と振り返ります。

同社の2つある拠点のうち2018年7月に立ち上げたヨコスカファクトリー(茨城県筑西市)を訪ねると、加工機としてツガミ製自動旋盤16台と中村留精密工業製複合加工機1台がありました。これらで加工するのは直径1φ、長さ3φ前後のシマノ製自転車ブレーキに使われるアルミ部品。生産量がとにかく多く、5種類ある部品はそれぞれ月に1万〜3万個。穴径1.8×長さ11の針状

の部品は月産70万個ほどになるといいます。21年7月までは川崎重工工業向け建設機械の油圧部品もつくってました。

加工品をよく見ると、ただの円筒形ではなく竹の子状に段差と角度がついていたり、先端にドーナツ状の突起物がついていたりかなり複雑な形状です。それでもミリング機能の付いた自動盤や複合加工機を利用して量産しています。これらのワークは加工の難しきよりも数が多いため品質を保証することのほうが難しいそうで、不良品が出れば加工を終えた何千、何万個が無駄になりかねません。

「加工工程や機械の整備状態、刃物の管理など一連の生産管理を完璧にしていれば加工品の90%以上は良品になる。それを怠って騙しだましつくり続けると不良品に繋がる」宇田川社長はそう気を引き締めます。

生産量の増加に伴い21年前半にユーエイを通して自動盤4台を購入したのに続き、今夏にはさらに自動盤8台を導入して



自転車部品と川崎重工工業向け建設機械の油圧部品 (=右端、材質はSCM415)

「加工工程や機械の整備状態、刃物の管理など一連の生産管理を完璧にしていれば加工品の90%以上は良品になる。それを怠って騙しだましつくり続けると不良品に繋がる」宇田川社長はそう気を引き締めます。

生産量の増加に伴い21年前半にユーエイを通して自動盤4台を購入したのに続き、今夏にはさらに自動盤8台を導入して

います。ユーエイとの取引を続けるのはレスポンスの早さと関西を主拠地とする会社と付き合うことでビジネスの広がりを期待するからだそうです。

「今後はもっと複雑な加工、大きなワークにも対応しようと自動化を進めた複合加工機の導入も検討しているそうで「今の量産体制をしっかりと整えたい。付加価値の高い半導体製造装置の部品などにもトライしたい」と話します。

その一方で、本社のある埼玉県では近隣の射出成形金型メーカーをグループ化する事も検討しています。「会社をもっと大きくしていきたい。専門性だけを追求してはギリギリな状態。健全な会社であるために夢を持ちつづけた」と宇田川社長は話してくれました。